

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬業科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	日本薬局方・製剤学 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	通年	教室名	4校舎502
担 当 教 員	藤原 裕行	実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

①講義受講態度②前期試験③小テスト④出席率 評価の重要なポイントの優先順位は、③→②→④ ①「平常点10点評価」出欠確認時、返事がなかった場合は欠席扱いとする。授業態度が悪い場合は平常点0点とする。評価基準は、前期試験60%、小テスト20%、態度・質問・発表20%とする。

《成績評価の方法と基準》

出席点・授業態度・小テストの得点：40%
 期末試験の得点：60%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

登録販売者試験対策テキスト 発行所:(株)じほう プリント(配布された資料・プリントは毎回必ず持参すること)

《授業外における学習方法》

配布したプリントや登録販売者テキストで、第2章を毎日必ず振り返り、学習内容の理解を深める。「向上心のある学生からの依頼」の質問は大歓迎。

《履修に当たっての留意点》

リアクションペーパーの提出を求めることもある。感染対策には学校の指示のもと十分に留意すること。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 講義の進め方について理解できる		
	各コマにおける授業予定	就職先とは？講義の進め方についての説明と第2章とはどのようなものかを話します。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 人体(口腔・咽頭・食道)の構造と働きの概要について説明できる	登録販売者試験対策テキスト ・プリント(胃)	口腔・咽頭・食道について復習を行う
	各コマにおける授業予定	口腔・咽頭・食道について学びます。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 内臓器官のうち、消化器系について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト ・プリント(肝臓→コレステロール)	今回のテーマである胃・膵臓・胆嚢・肝臓について事前に調べてくることが望ましいが、無理な場合は、これらの復習と小テストは必ず行うこと
	各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.胃・小腸・膵臓・胆嚢・肝臓について学びます。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 内臓器官のうち、消化器系について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト ・プリント(大腸・肛門)	大腸・肛門・酵素と消化について復習と小テストは、必ず行うこと
	各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.大腸・肛門 3.酵素と消化のポイントのまとめについて学びます。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 内臓器官のうち、呼吸器系・循環器系について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト ・プリント(心臓)	呼吸器系・循環器系の心臓について復習と小テストは、必ず行うこと
	各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.呼吸器系・循環器系の心臓について学びます。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器系の血管系・門脈・血液について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト ・ プリント(門脈)	血管系と血液・門脈についての復習と小テストは、必ず行うこと
		各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.血管系と門脈について学びます。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器系の血管系と血液について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト ・ プリント(アルブミンと浸透圧)	今回のテーマである血液(血漿・血球)について事前に調べてくることが望ましいが、無理な場合は、これらの復習と小テストは、必ず行うこと
		各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.血液(血漿・血球)について学びます。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器系の血管系と血液について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト ・ プリント(血球の分類)	血液の組成についてと、これらの復習と小テストは、必ず行うこと
		各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.血漿・血球(赤血球)について学びます。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器系の脾臓・リンパ系について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト ・ プリント(フィブリン・血餅)	今回のテーマである白血球の分類・血餅について事前に調べてくることが望ましいが、無理な場合は、これらの復習と小テストは、必ず行うこと
		各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.血球(白血球)・血小板について学びます。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器系の脾臓・リンパ系について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト ・ プリント(エピネフリン・ノルエピネフリン)	脾臓・リンパ系について復習と小テストは、必ず行うこと
		各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.脾臓・リンパ液・リンパ管・リンパ節について学びます。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器系について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト ・ プリント(腎臓の構造)	腎臓についての復習と小テストは、必ず行うこと
		各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.腎臓について学びます。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器系について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト ・ プリント(副腎の構造)	今回のテーマである副腎について事前に調べてくることが望ましいが、無理な場合は、これらの復習と小テストは、必ず行うこと
		各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.副腎について学びます。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器系の副腎について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト ・ プリント(副腎髄質の構造・高峰讓吉)	今回のテーマである副腎髄質ホルモンについて事前に調べてくることが望ましいが、無理な場合は、これらの復習と小テストは、必ず行うこと
		各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.アドレナリン・ノルアドレナリンについて学びます。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器系について説明ができる。	登録販売者試験対策テキスト	尿路についての復習と小テストは、必ず行うこと
		各コマにおける授業予定	1.小テスト 2.尿路(膀胱・尿道)について学びます。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	苦手な範囲を確認、対策を立て、後期に進むことができる。	登録販売者試験対策テキスト	今迄の復習
		各コマにおける授業予定	総復習		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬業科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	日本薬局方・製剤学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	通年	教室名	4校舎502
担 当 教 員	藤原 裕行	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
①講義受講態度②前期試験③小テスト④出席率 評価の重要なポイントの優先順位は、③→②→④ ①「平常点10点評価」 出欠確認時、返事がなかった場合は欠席扱いとする。授業態度が悪い場合は平常点0点とする。評価基準は、前期試験 60%、小テスト20%、態度・質問・発表20%とする。						
《成績評価の方法と基準》						
出席点・授業態度・小テストの得点：40% 期末試験の得点：60%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
登録販売者試験対策テキスト 発行所:(株)じほう プリント(配布された資料・プリントは毎回必ず持参すること)						
《授業外における学習方法》						
配布したプリントや登録販売者テキストで、第2章を毎日必ず振り返り、学習内容の理解を深める。「向上心のある学生からの 依頼」の質問は大歓迎。						
《履修に当たっての留意点》						
リアクションペーパーの提出を求めることもある。感染対策には学校の指示のもと十分に留意すること。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	前期範囲の理解度を確認し、改善策をたてることができる。	教科書	授業で実施した内容の 復習及びスマートフォン 等を用いて画像でも確 認する。	
		各コマに おける 授業予定	前期範囲の総復習。			
第 17 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	感覚器官について理解し、ポイントを説明することができる。	教科書	授業で実施した内容の 復習及びスマートフォン 等を用いて画像でも確 認する。	
		各コマに おける 授業予定	目、耳、鼻などの感覚器官について学ぶ。			
第 18 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	運動器官について理解し、ポイントを説明することができる。	教科書	授業で実施した内容の 復習及びスマートフォン 等を用いて画像でも確 認する。	
		各コマに おける 授業予定	皮膚、骨・関節、筋肉などの運動器官について学ぶ。			
第 19 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	脳、神経系について理解し、ポイントを説明することができる。	教科書	授業で実施した内容の 復習及びスマートフォン 等を用いて画像でも確 認する。	
		各コマに おける 授業予定	脳や神経系の働きについて学ぶ。			
第 20 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	薬の生体内運命について理解し、ポイントを説明することができ る。	教科書	授業で実施した内容の 復習及びスマートフォン 等を用いて画像でも確 認する。	
		各コマに おける 授業予定	薬の生体内運命について学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬の体内での働きについて理解し、ポイントを説明することができる。	教科書	授業で実施した内容の復習及びスマートフォン等を用いて画像でも確認する。
		各コマにおける授業予定	薬の体内での働きについて学ぶ。		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	剤形ごとの違いについて理解し、ポイントを説明することができる。	教科書	授業で実施した内容の復習及びスマートフォン等を用いて画像でも確認する。
		各コマにおける授業予定	剤形ごとの違い、適切な使用方法について学ぶ。		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	副作用の怖さを理解し、薬のデメリット、メリットを考えることができる。	教科書	授業で実施した内容の復習及びスマートフォン等を用いて画像でも確認する。
		各コマにおける授業予定	全身的に現れる副作用について学ぶ。		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	各部位に起こりえる副作用について学び、その特長について簡単に説明することができる。	教科書	授業で実施した内容の復習及びスマートフォン等を用いて画像でも確認する。
		各コマにおける授業予定	精神神経系に現れる副作用について学ぶ。		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	各部位に起こりえる副作用について学び、その特長について簡単に説明することができる。	教科書	授業で実施した内容の復習及びスマートフォン等を用いて画像でも確認する。
		各コマにおける授業予定	体の局所に現れる副作用について学ぶ。 消化器系に現れる副作用		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	各部位に起こりえる副作用について学び、その特長について簡単に説明することができる。	教科書	授業で実施した内容の復習及びスマートフォン等を用いて画像でも確認する。
		各コマにおける授業予定	体の局所に現れる副作用について学ぶ。 呼吸器系に現れる副作用		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	各部位に起こりえる副作用について学び、その特長について簡単に説明することができる。	教科書	授業で実施した内容の復習及びスマートフォン等を用いて画像でも確認する。
		各コマにおける授業予定	体の局所に現れる副作用について学ぶ。 循環器系に現れる副作用		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	各部位に起こりえる副作用について学び、その特長について簡単に説明することができる。	教科書	授業で実施した内容の復習及びスマートフォン等を用いて画像でも確認する。
		各コマにおける授業予定	体の局所に現れる副作用について学ぶ。 泌尿器系に現れる副作用		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	各部位に起こりえる副作用について学び、その特長について簡単に説明することができる。	教科書	授業で実施した内容の復習及びスマートフォン等を用いて画像でも確認する。
		各コマにおける授業予定	体の局所に現れる副作用について学ぶ。 感覚器系・皮膚に現れる副作用		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の構造を理解し、今後実施される応用の授業に役立てることができる。	教科書	授業で実施した内容の復習及びスマートフォン等を用いて画像でも確認する。
		各コマにおける授業予定	総復習		